

## IARU GSP 報告書

教養学部総合社会科学科

国際関係論分科4年

派遣大学：ケンブリッジ大学



私は7月4日～30日までの4週間、ケンブリッジ大学に派遣していただきました。4週間という短い期間でしたが、大学生活最後の年にこのような貴重でかけがえのない経験をさせていただいたこと、まず感謝の意を示させていただきます。ありがとうございました。

この報告書ではケンブリッジ大学での経験を、学業と日常生活の二つの側面から報告させていただきたいと思います。

まず、学業面についてですが、今回のケンブリッジ大学のプログラムのテーマは“Understanding the past, Preparing for the future”というものでした。ケンブリッジでは一般の学生向けに科学、芸術、歴史、文学、ISSといった各サマースクールが開かれており、私たちGSPの学生は各サマースクールの好きな講義を選び毎日午前中に2講義、夕方1講義を受けることができました。私は自分の専攻に近い講義だけでなく、科学など普段あまり学ぶ機会がない授業を選択するようにしていましたが、東京大学の前期課程で教養科目を学んでいたときに似た知的興奮を多くの授業で感じる事が

でき、新しいことを学ぶ楽しさを再実感しました。また、午後には一週間に2〜3回程度、教授と私たち GSP の学生で必修講義に関するディスカッションの機会が設けられました。時には予定時刻を超えたり、ディスカッションが終わった後も学生同士で語り合ったりと、非常に密な時間を過ごせたと感じています。

また、ケンブリッジ大学のプログラムで私が最も有意義な時間を過ごせたと感じているのが、教授一人と生徒三人を一組として行われるチュートリアルです。私の担当教官は私の専攻である国際関係論に深い知識を持った方で、週一回提出するレポートに対して適切なコメントをくださると共に、欠けている視点等を示唆してくださいました。毎週3000字のレポートを英語で書くことは簡単なことではありませんでしたが、グループメートと励まし合いながら全ての課題をこなせたことで達成感を感じると共に、自分に対する自信を持つことができました。私は国際関係論を2年間学んできましたが、大学生活最後の年に、同じ科目を専攻する他の大学の学生と議論したり意見を交換できたりしたことは、学生生活のまとめとしてこれほどにはない経験だったと感じています。

次にケンブリッジ大学での日常生活についてです。イギリスの大学で勉強することに強く憧れていた私にとって、長い歴史を持った荘厳な建物に毎日囲まれて過ごした4週間は、本当に夢のような時間でした。ハリーポッターの映画で見た世界がまさにそこにありました。私たち GSP の学生は **Gonville and Caius college** の **the Stephan Hawkings Building** という寮に滞在したのですが、一人に一部屋が与えられ、インターネットを含め非常に勉強に集中しやすい環境が整っていました。そして、友人との思い出を一言で表すと、『よく学び、よく遊んだ毎日』と言えると思います。ケンブリッジ大学のプログラムは遊ぶ時間を見つけるのが難しいほど多くの内容がつまっていたのですが、皆で励まし合いながら課題をこなし、パブに行ってお互いの国について熱く語ったり、週末にはケンブリッジを離れて小旅行にいたりしました。集中するところと楽しむところの切り替えが皆うまく、毎日充実した時間を過ごすことができたのもこうした仲間にもまれていたからだと感じています。

ケンブリッジ大学での生活は語学や課題の量など、私にとっては挑戦の連続でしたが、4週間のプログラムを終えて今振り返ってみると、苦勞したことも含めてすべてがかけがえのない思い出になっています。そして、今でも連絡を取り合い、いつかお互いの国で再会しようと語り合える友人を得られたことが一番の収穫だと感じています。IARU GSP の知名度はまだ高いとは言えないかもしれませんが、今後もこのプログラムを通じてより多くの生徒が自分自身に挑戦する機会に恵まれることを望んでいます。